

科目名	応急救護 I 1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	入谷 拓哉
学科・コース	エコ・コミュニケーション昼-3年制	授業 形態	講義	単位	1		
教員の略歴	ライフセービング業界における第一人者。多数現場経験あり。						
授業の学習 内容	ライフセーバーとして救命の現場で実践活動の経験を積んだ教員が、救命の現場の実際を交えながら一般市民に求められる応急手当や心肺蘇生の重要性を理解させ実践できるようになる知識や技術を習得する授業を行う。						
到達目標	ライフセービングの精神を理解し生命教育を通じ自分の大切な家族、友人、そして隣人の命を守りたいという人間的な愛の表現を学び、いざという時の心構えを身に着けるとともに、一般的な傷病に対して救急隊が到着するまでの間の正しい手当が実践できるように、正確な知識と技術を習得する。						
評価方法と基準	定期試験 100% 筆記試験評価: GPA(S100~90 A89~80 B79~70 C69~60 F59~0) 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回 レポート課題(教材からの抜粋)を提示し、提出をもってCの評価とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	生活や仕事をする上で必要なことを準備する。市民の義務の一つでもあることを感じる。	入学前オリエンテーションにおける3つの週間の理解と個人目標の策定
2		講義	応急手当の定義について説明できる。傷病者の観察について実践する。	傷病者の観察方法について実施する。
3		講義	ケガについて説明できる。RICE処置、アイシング、止血について説明できる	間接圧迫止血について実施する。
4		講義・演習	伊豆水族館実習において、現場での状況を観察する。	伊豆水族館実習をもって充当する。
5		講義	筋けいれん、熱傷について説明できる	熱唱の処置を実施する。
6		講義・演習	大島ダイビング実習において、現場での状況を観察する。	大島ダイビング実習をもって充当する。
7		講義	凍傷、熱中症について説明できる。熱中症の対策と手当の方法について調べる	熱中症の対策について調べる。
8		講義	海の知識(波、リップカレント)について調べる	提出レポートをもって充当する。
9		講義	低体温、過換気、心臓発作について説明できる	心臓発作について調べる。
10		講義	脳卒中、けいれんについて説明できる。(映像: NHKスポーツ大陸)	レポート提出をもって充当する。
11		講義・演習	保護ガーゼ、包帯、三角巾について説明できる 八つ折り、本結び、たたみ方を修得する。	指定した三角巾での傷の保護を実践する
12		演習	三角巾での傷の保護を修得する。 (目、頭、顔面、胸、肩、臀部、顔面、胸)	
13		演習	三角巾での傷の保護を修得する。 (肩、臀部、手、足、前腕、腕つり)	
14		講義・試験	テスト対策・60分の筆記試験	試験範囲からの予習と対策
15		講義	テスト結果からの振り返りを行うことで、応急手当の理解を深める。	試験範囲からの復習
準備学習 時間外学習		事後学習を通じてより深く学び、事前学習を行うことで授業内での学びの展開を促す		
【使用教科書・教材・参考書】				
※指示をした時のみ、タブレット端末などでの検索を許可する。				

科目名	応急救護 I 2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	入谷 拓哉
学科・コース	エコ・コミュニケーション科 昼一3年制	授業 形態	講義	単位	1		
教員の略歴	ライフセービング業界における第一人者。多数現場経験あり。						
授業の学習 内容	ライフセーバーとして救命の現場で実践活動の経験を積んだ教員が、救命の現場の実際を交えながら一般市民に求められる応急手当や心肺蘇生の重要性を理解させ実践できるようになる知識や技術を習得する授業を行う。						
到達目標	ライフセービングの精神を理解し生命教育を通じ自分の大切な家族、友人、そして隣人の命を守りたいという人間的な愛の表現を学び、いざという時の心構えを身に着けるとともに、一般的な傷病に対して救急隊が到着するまでの間の正しい手当が実践できるように、正確な知識と技術を習得する。						
評価方法と基準	定期試験 100% 筆記試験評価: GPA(S100~90 A89~80 B79~70 C69~60 F59~0) 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回 レポート課題(教材からの抜粋)を提示し、提出をもってCの評価とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	生活や仕事をする上で必要なことを準備する。市民の義務の一つでもあることを感じる。	入学前オリエンテーションにおける3つの週間の理解と個人目標の策定
2		講義	応急手当の定義について説明できる。傷病者の観察について実践する。	傷病者の観察方法について実施する。
3		講義	ケガについて説明できる。RICE処置、アイシング、止血について説明できる	間接圧迫止血について実施する。
4		講義・演習	伊豆水族館実習において、現場での状況を観察する。	伊豆水族館実習をもって充当する。
5		講義	筋けいれん、熱傷について説明できる	熱傷の処置を実施する。
6		講義・演習	大島ダイビング実習において、現場での状況を観察する。	大島ダイビング実習をもって充当する。
7		講義	凍傷、熱中症について説明できる。熱中症の対策と手当ての方法について調べる	熱中症の対策について調べる。
8		講義	海の知識(波、リップカレント)について調べる	提出レポートをもって充当する。
9		講義	低体温、過換気、心臓発作について説明できる	心臓発作について調べる。
10		講義	脳卒中、けいれんについて説明できる。(映像: NHKスポーツ大陸)	レポート提出をもって充当する。
11		講義・演習	保護ガーゼ、包帯、三角巾について説明できる 八つ折り、本結び、たたみ方を修得する。	指定した三角巾での傷の保護を実践する
12		演習	三角巾での傷の保護を修得する。 (目、頭、顔面、胸、肩、臀部、顔面、胸)	
13		演習	三角巾での傷の保護を修得する。 (肩、臀部、手、足、前腕、腕つり)	
14		講義・試験	テスト対策・60分の筆記試験	試験範囲からの予習と対策
15		講義	テスト結果からの振り返りを行うことで、応急手当の理解を深める。	試験範囲からの復習
準備学習 時間外学習		事後学習を通じてより深く学び、事前学習を行うことで授業内での学びの展開を促す		
【使用教科書・教材・参考書】				
※指示をした時のみ、タブレット端末などでの検索を許可する。				

科目名	グルーミング演習 I 1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	江本
学科・コース	エコ・コミュニケーション科 昼-3年制	授業 形態	演習	総時間 (単位)	2		
教員の略歴	ペットサロン・動物病院・商品、生体販売の接客・ドッグトレーナー補助と様々な経験があります						
授業の学習 内容	犬の健康管理に必要な健康チェック、シャンプー、ブローをメインに授業を行います 犬とのコミュニケーション・コントロールを学び、犬に負担の少ない安全なグルーミング方法を学びます						
到達目標	1)健康チェックの方法を理解し、異変に気付く力を習得する 2)犬のシャンプー・ブローの方法を習得する 3)犬とコミュニケーションをとりコントロールすることができる						
評価方法と基準	1)定期試験60% 2)演習中の態度20% 3)時間外学習で行ったプリントの提出20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	グルーミングとは何かを理解する	配布したプリントを熟読する
2		講義実習	演習の流れを理解する	カルテ記入を実践する
3		講義実習	シャンプー、ブローの方法を理解する	レポート記入を実践する
4		演習	3~4名のグループで演習の流れを実践する	担当犬のレポート記入
5		演習	シャンプー、ブローを実践する	担当犬のレポート記入
6		演習	グループ内で分担し演習の準備が出来る	担当犬のレポート記入
7		演習	カルテ・レポートの記入が出来る	担当犬のレポート記入
8		演習	演習の流れがスムーズに出来る	担当犬のレポート記入
9		演習	シャンプー・ブローのチェックが1度で完了する	担当犬のレポート記入
10		演習	試験に向け演習の流れを確認する	担当犬のレポート記入
11		演習	演習全体での不明瞭な部分を確認し理解する	担当犬のレポート記入
12		演習	試験(実技・グルーミング演習)	担当犬のレポート記入
13		演習	試験(カルテ・レポート記入)	担当犬のレポート記入
14		演習	振り返り(試験結果の見返し)	担当犬のレポート記入
15		演習	振り返り(今まで行った授業の復習)	担当犬のレポート記入
準備学習 時間外学習		担当犬のレポート記入		
【使用教科書・教材・参考書】				
動きやすい服装・靴 筆記用具				

科目名	グルーミング演習 I 2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	江本
学科・コース	エコ・コミュニケーション科 昼-3年制	授業 形態	演習	総時間 (単位)	2		
教員の略歴	ペットサロン・動物病院・商品、生体販売の接客・ドッグトレーナー補助と様々な経験があります						
授業の学習 内容	犬の健康管理に必要な健康チェック、シャンプー、ブローをメインに授業を行います 犬とのコミュニケーション・コントロールを学び、犬に負担の少ない安全なグルーミング方法を学びます						
到達目標	1)健康チェックの方法を理解し、異変に気付く力を習得する 2)犬のシャンプー・ブローの方法を習得する 3)犬とコミュニケーションをとりコントロールすることができる						
評価方法と基準	1)定期試験60% 2)演習中の態度20% 3)時間外学習で行ったプリントの提出20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	グルーミングとは何かを理解する	配布したプリントを熟読する
2		講義実習	演習の流れを理解する	カルテ記入を実践する
3		講義実習	シャンプー、ブローの方法を理解する	レポート記入を実践する
4		演習	3~4名のグループで演習の流れを実践する	担当犬のレポート記入
5		演習	シャンプー、ブローを実践する	担当犬のレポート記入
6		演習	グループ内で分担し演習の準備が出来る	担当犬のレポート記入
7		演習	カルテ・レポートの記入が出来る	担当犬のレポート記入
8		演習	演習の流れがスムーズに出来る	担当犬のレポート記入
9		演習	シャンプー・ブローのチェックが1度で完了する	担当犬のレポート記入
10		演習	試験に向け演習の流れを確認する	担当犬のレポート記入
11		演習	演習全体での不明瞭な部分を確認し理解する	担当犬のレポート記入
12		演習	試験(実技・グルーミング演習)	担当犬のレポート記入
13		演習	試験(カルテ・レポート記入)	担当犬のレポート記入
14		演習	振り返り(試験結果の見返し)	担当犬のレポート記入
15		演習	振り返り(今まで行った授業の復習)	担当犬のレポート記入
準備学習 時間外学習		担当犬のレポート記入 等		
【使用教科書・教材・参考書】				
動きやすい服装・靴 筆記用具				

科目名	ドッグトレーニング演習 I 1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	安齋 裕己
学科・コース	エコ・コミュニケーション科 昼-3年制	授業 形態	演習	総時間 (単位)	2		
教員の略歴	元嘱託警察犬訓練士、現在は 家庭犬訓練教室を開業						
授業の学習 内容	犬のトレーニングに必要な基礎知識を理解するための講義と、実際に犬を使った演習を行うことによりより深くトレーニングを理解する授業です。 自分自身がしっかりとトレーニングを理解する事により、犬が理解しやすいトレーニングを習得します。 ※ 実際に犬を使ったトレーニングを行う授業のため、内容に変更のある場合があります。						
到達目標	犬の本能を利用したトレーニング方法を使い、基本動作を犬に教えることが出来る。 後期及び、進級後に備えアマチュアにトレーニング方法を理解しやすく説明出来る様になる。						
評価方法と基準	<ul style="list-style-type: none"> 定期試験(筆記試験) 60% 講義・演習中の態度及び、トレーニング成果 40% 						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	担当犬の理解 (実際に犬と接することにより、性格を読み取り犬具の装・脱着が出来る)	学校飼育犬及び、担当犬の管理
2		講義・演習	招呼(呼び戻し)を教えることが出来る	学校飼育犬及び、担当犬の管理
3		講義・演習	誘惑がある状況での招呼を教えることが出来る	学校飼育犬及び、担当犬の管理
4		講義・演習	脚側意識の基礎を教えることが出来る	学校飼育犬及び、担当犬の管理
5		講義・演習	脚側行進の基礎を教えることが出来る	学校飼育犬及び、担当犬の管理
6		講義・演習	ハウスを教えることが出来る	学校飼育犬及び、担当犬の管理
7		講義・演習	伏臥を教えることが出来る	学校飼育犬及び、担当犬の管理
8		講義・演習	脚側意識の応用を教えることが出来る	学校飼育犬及び、担当犬の管理
9		講義・演習	脚側行進の応用を教えることが出来る	学校飼育犬及び、担当犬の管理
10		講義・演習	声符・視符を正しく使うことが出来る	学校飼育犬及び、担当犬の管理
11		講義・演習	JKC 家庭犬訓練試験の規定を理解する	学校飼育犬及び、担当犬の管理
12		講義・演習	JKC CD-1の規定を教えることが出来る	学校飼育犬及び、担当犬の管理
13		講義・演習	JKC CD-1の規定を教えることが出来る	学校飼育犬及び、担当犬の管理
14		講義・試験	試験 (筆記試験)	学校飼育犬及び、担当犬の管理
15		講義・演習	前期の講義と演習を振り返り、総合的な理解を深める	学校飼育犬及び、担当犬の管理
準備学習 時間外学習		学校飼育犬の飼育当番及び観察で充当		
【使用教科書・教材・参考書】 犬具一式 ・ 筆記用具 ・ トレーニング日誌				

科目名	ドッグトレーニング演習 I 2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	古銭
学科・コース	エコ・コミュニケーション科 昼ー3年制	授業 形態	演習	(単位)	2		
教員の略歴	動物病院にて、家庭犬トレーニングを行っている						
授業の学習 内容	異文化コミュニケーション:犬との違いを知り、お互いを理解する授業です。また、犬と飼い主の良き理解者になるための授業でもあります。知識のみならず、心技体を絶えず意識して授業に参加してください。そしていつも自分で考え工夫する努力を忘れないでください。						
到達目標	自分を飼い馴らし、犬を飼い馴らす。飼い主を選ぶことのできない犬の本当の理解者になる。犬文化後進国・日本での犬文化の向上に貢献する。動物病院など現場のニーズを考えたトレーニング方法を身につける。						
評価方法と基準	出席率80% 実技テスト20%(基本的な犬の扱いがリード・首輪を使い出来る)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	犬はどのような動物か理解することが出来る。	学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する
2		講義・演習	犬と人の違いを理解することが出来る。	学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する
3		講義・演習	犬の時間・一生を考えることができる。	学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する
4		講義・演習	犬の心を育てるトレーニング方法を身に着けることが出来る。	学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する
5		講義・演習	犬から何を学ぶことが出来るかを理解することが出来る。	学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する
6		講義・演習	犬とはどのような人を尊敬するかを理解することが出来る。	学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する
7		講義・演習	犬が人に注目するような進退の動き、使い方を理解することが出来る。	学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する
8		講義・演習	犬と人の距離のとりかたを理解できる。	学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する
9		講義・演習	犬はどのような空間を好むのか理解できる。	学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する
10		講義・演習	犬は人との共同作業が好きという概念を理解できる。	学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する
11		講義・演習	犬らしい犬を育てるとい言葉の意味を理解し実践できる。	学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する
12		講義・演習	犬に仕事を与えるということを理解し実践できる。	学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する
13		講義・演習	犬のきもちを理解し、トレーニングを行うことが出来る。	学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する
14		講義・演習	試験	学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する
15		講義・演習	振り返り	学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する
準備学習 時間外学習		学校犬の飼育当番を時間外学習に充当する		
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	ドルフィントレーニング I 1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	佐伯 宏美
学科・コース	エコ・コミュニケーション科 昼—3年制	授業 形態	演習	総時間 (単位)	1		
教員の略歴							
授業の学習 内容	ドルフィントレーナーに必要な不可欠である水族館での実質的な飼育・調教・展示について理解・習得する「イルカの行動と管理」「動物の体のしくみ」「動物の健康管理」の講義とリンクするが、当講義ではトレーニング理論のみならず、実際の飼育・調教・展示を行う現場での目線で講義を展開する特にトレーニングは言葉だけの理解ではなく動物に応用できる考え方を身につけることにより、知識だけの頭でっかちではなく、目の前にいる動物の気持ちを考え動物目線で見られる感性を持った人材となり、動物から学ぶ姿勢を身につける						
到達目標	水族館における鯨類の飼育現場で求められる知識・技能を習得し、人間(自分)本位で押し付けるのではなく動物の立場に立って考えることのできる人材になる また、様々な事象に対してその場の対処方法だけを覚えるのではなく、原因を追究し考えかたを理解することでどのような事態にも対応できる人材となる						
評価方法と基準	1) 定期テスト 60% 2) 授業態度及び出席率 40%						

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		講義	授業の概要・目的説明、各自の目標確認または設定・共有するイルカについて基本的な生態・形態などを理解することができる(イルカとは)	準備学習: 次回講義の飼育ハンドブック該当箇所の熟読	時間外学習(学習課題); 講義内容のまとめ 資料化
2		講義	水族館の仕事「飼育・調教・展示・調査研究」の理解、社会的機能である教育・レクリエーション・自然保護・研究の必要性を理解することができる(水族館の意義と仕事)	準備学習: 次回講義の飼育ハンドブック該当箇所の熟読	時間外学習(学習課題); 講義内容のまとめ 資料化
3		講義	イルカの捕獲～命を閉じるまでの飼育10項目について、それぞれの内容を知ることにより飼育とはどんなことかを知ることができる(飼育業務Ⅰ)	準備学習: 次回講義の飼育ハンドブック該当箇所の熟読	時間外学習(学習課題); 講義内容のまとめ 資料化
4		講義	飼育の基本事項①水②種③餌料④管理についての重要性を理解し各項目の概要を理解できる(飼育業務Ⅱ)	準備学習: 次回講義の飼育ハンドブック該当箇所の熟読	時間外学習(学習課題); 講義内容のまとめ 資料化
5		講義	飼育の心構え(精神論を含め)を知ることができるイルカ類の飼育・管理・観察要点を知り健康管理(異常発見)の概要を知ることができる(飼育業務Ⅲ)	準備学習: 次回講義の飼育ハンドブック該当箇所の熟読	時間外学習(学習課題); 講義内容のまとめ 資料化
6		講義	(1B)なぜトレーニングが必要なのかを理解できるとともに、トレーナーとしての資質条件を知る(イルカトレーニング基礎編) (1A)大鳥ダイビング実習 未体験の海を知ることができる	準備学習: 次回講義の飼育ハンドブック該当箇所の熟読	時間外学習(学習課題); 講義内容のまとめ 資料化
7		講義	パフォーマンスの教育的メリットを理解しパフォーマンスを行う上での心構えを学ぶことにより意識を高めることができる(展示・パフォーマンス)	準備学習: 次回講義の飼育ハンドブック該当箇所の熟読	時間外学習(学習課題); 講義内容のまとめ 資料化
8		講義	(1A)なぜトレーニングが必要なのかを理解できるとともに、トレーナーとしての資質条件を知る(イルカトレーニング基礎編) (1B)大鳥ダイビング実習 未体験の海を知ることができる	準備学習: 次回講義の飼育ハンドブック該当箇所の熟読	時間外学習(学習課題); 講義内容のまとめ 資料化
9		講義	トレーニングに必要な条件付けについて理解することができる条件付けの基本を知り原理を理解する(レスポナント条件付け)	準備学習: 次回講義の飼育ハンドブック該当箇所の熟読	時間外学習(学習課題); 講義内容のまとめ 資料化
10		講義	トレーニングに必要な条件付けについて理解することができるオペラント条件付けにおける正・負の強化、正・負の罰を理解する(オペラント条件付けⅠ)	準備学習: 次回講義の飼育ハンドブック該当箇所の熟読	時間外学習(学習課題); 講義内容のまとめ 資料化
11		講義	トレーニングに必要な条件付けについて理解することができる弁別刺激と強化子を理解し三項随伴性の流れを知る(オペラント条件付けⅡ)	準備学習: 次回講義の飼育ハンドブック該当箇所の熟読	時間外学習(学習課題); 講義内容のまとめ 資料化
12		講義	条件付けにおける強化子をより理解し、餌以外の強化子の有効性について知ることができる(二次性強化子)	準備学習: 次回講義の飼育ハンドブック該当箇所の熟読	時間外学習(学習課題); 講義内容のまとめ 資料化
13		前期まとめ	前期の重要事項の復習を行うことにより、より深く理解することができるようになる併せて試験範囲の提示も行いより意識を高めることができる		
14		試験			
15		振り返り	試験問題に関する解説を行うことでより理解度を深め、トレーニング理論を再認識することができる		
準備学習 時間外学習			準備学習: 次回講義の飼育ハンドブック該当箇所を熟読することにより講義内での理解度を深める 時間外学習(学習課題); 講義内容を自らまとめることにより個人の参考資料化を図る		
【使用教科書・教材・参考書】 日本動物園水族館協会発行「新ハンドブック水族館編」、東海大学出版会「水族館の仕事」、東海大学出版会「海獣水族館」、二瓶社「うまくやるための強化の原理」他 随時学生に紹介する					

科目名	ドルフィントレーニング I 2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	佐伯宏美
学科・コース	エコ・コミュニケーション科 Ⅲ-3年制	授業 形態	演習	総時間 (単位)	1		
教員の略歴							
授業の学習 内容	水族館における「素晴らしい展示」には「よい調教」が必要であり、よい調教を行うには「よい飼育」を行い健康な動物を確保することが必要であることから、すべてにおいて「飼育」が基本となる飼育の重要性を十分に理解し、水族館での鯨類の実質的な飼育について知り理解する「水族館学」「海洋哺乳類」とリンクするが、当講義では飼育10項目を含む飼育の要点である①水②種③餌料④管理を軸に現場目線で講義を展開する						
到達目標	飼育現場で求められる知識を身につけることを目的とし、人間(自分)本位で押しつけるのではなく動物の立場に立ち動物目線で思考することができること、飼育に関する様々な事象に対して常に考え動物から学ぶ姿勢を持つことなど目の前にいる動物の気持ちを考え飼育管理ができる感性を持った人材になる						
評価方法と基準	1) 定期テスト 60% 2) 授業態度及び出席率 40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	授業の概要・目的説明、鯨類の飼育について基本的な考え方を伝えることにより今後の学習内容を把握することができる(飼育とは)	準備学習: 次回講義の飼育ハンドブック該当箇所の熟読 時間外学習(学習課題); 講義内容のまとめ 資料化
2		講義	飼育設備の概要を学ぶ 水槽設備・飼育水の管理・濾過循環システムなどの概要を知る 水-① 施設管理(概要)	準備学習: 次回講義の飼育ハンドブック該当箇所の熟読 時間外学習(学習課題); 講義内容のまとめ 資料化
3		講義	水槽設備について水槽形状・防水・ガラス・ディスプレイ・照明など水族館ならではの特性を知り飼育の側面だけではなく展示についてもその重要性を学ぶ 水-① 水槽設備	準備学習: 次回講義の飼育ハンドブック該当箇所の熟読 時間外学習(学習課題); 講義内容のまとめ 資料化
4		講義	鯨類の飼育の大きな要素である飼育水の管理を学ぶ 取水方法と様々な濾過循環設備の原理を理解する 水-③ 飼育水の管理 取水設備と過循環設備	準備学習: 次回講義の飼育ハンドブック該当箇所の熟読 時間外学習(学習課題); 講義内容のまとめ 資料化
5		講義	プール用薬品注入における水族館の特殊性を知り、その必要性を理解するとともに、薬注機器の原理を知り管理できるようにする 水-④ 飼育水の管理 プール用薬品と薬注ポンプ	準備学習: 次回講義の飼育ハンドブック該当箇所の熟読 時間外学習(学習課題); 講義内容のまとめ 資料化
6		講義	飼育鯨類の自然界における生息環境で重要である温度調節についてその必要性和原理を理解する 水-⑤ 飼育水の管理 温度調節装置	準備学習: 次回講義の飼育ハンドブック該当箇所の熟読 時間外学習(学習課題); 講義内容のまとめ 資料化
7		講義	水族館における電気の重要性を知るとともに非常時の対応(動物・施設・運営)を学ぶ 水-⑥ 電気設備 非常用発電設備と自家発電設備	準備学習: 次回講義の飼育ハンドブック該当箇所の熟読 時間外学習(学習課題); 講義内容のまとめ 資料化
8		講義	日本での飼育鯨種を知り、それらの同定方法を学ぶ 自然界でイルカに遭遇した時に識別できるようにする 種-① 鯨類の同定方法(見分け方)	準備学習: 次回講義の飼育ハンドブック該当箇所の熟読 時間外学習(学習課題); 講義内容のまとめ 資料化
9		講義	鯨類の収集に関する法令を知る イルカ類の捕獲方法、入手方法を知るとともに入手可能な鯨種を認識する 種-② 収集に関する法令と捕獲・収集方法	準備学習: 次回講義の飼育ハンドブック該当箇所の熟読 時間外学習(学習課題); 講義内容のまとめ 資料化
10		講義	野生鯨類の選別・畜養・輸送について知る 種-③鯨類の輸送	準備学習: 次回講義の飼育ハンドブック該当箇所の熟読 時間外学習(学習課題); 講義内容のまとめ 資料化
11		講義	搬入直後のイルカの初期飼育の基本である馴致について学ぶ 種-③初期飼育・馴致と調教	準備学習: 次回講義の飼育ハンドブック該当箇所の熟読 時間外学習(学習課題); 講義内容のまとめ 資料化
12		講義	ストランディング・迷入・混獲の多い鯨種を知り対応方法を知る 種-⑤ストランディング個体の対処方法	準備学習: 次回講義の飼育ハンドブック該当箇所の熟読 時間外学習(学習課題); 講義内容のまとめ 資料化
13		前期まとめ	前期の重要事項の復習を行うことにより、より深く理解することができるようになる併せて試験範囲の提示も行いより意識を高めることができる	
14		試験		
15		振り返り	試験問題に関する解説を行うことでより理解度を深め、飼育環境管理の大切さ、飼育動物の入手や取扱を再認識することができる	
準備学習 時間外学習			準備学習: 次回講義の飼育ハンドブック該当箇所を熟読することにより講義内での理解度を深める 時間外学習(学習課題); 講義内容を自らまとめることにより参考資料化を図る(次回講義終了時に全講義内容を確認)	
【使用教科書・教材・参考書】 日本動物園水族館協会発行「新ハンドブック水族館編」1～5・東海大学出版会「水族館の仕事」・東海大学出版会「海獣水族館」・二瓶社「うまくやるための強化の原理」他 随時学生に紹介する				

科目名	マリンスポーツ I 1	必修 選択	選択必須	年次	1	担当教員	原島大樹
学科・コース	エコ・コミュニケーション科昼-3年制	授業 形態	演習	単位	1		
教員の略歴	ダイビング機材ショップスタッフを経験。現在は、サーフィンスクール代表取締役を務める。						
授業の学習 内容	ドルフィントレーナー、ガイド、インタープリター、インストラクターとしての必要な水泳スキルを身につける。 またそれら業務に従事する上で必要不可欠な体力を作る。 準備体操を行い人前に立つことに慣れ、プレゼンテーション能力の向上を目指す。 授業は100%実技である。						
到達目標	クロールと背泳の技術が出来るようになる。 技術と体力を養いクロールで200m泳ぐことが出来るようになる。 日々の生活の中で水中に入り、自身のコンディショニングが出来るよう生活習慣を身に着ける。 準備体操を通じ健康な身体の育成、コンディショニングの維持が出来るようになる。						
評価方法と基準	定期試験100%(実技) 200mクロールのタイムの測定。 背泳の泳力評価(25m) 再試験は公欠が認められた物のみ対応する。 追試験1回 レポート課題(泳力向上について)を提示し、提出をもってCの評価とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	学校外施設の利用方法の確認。技術レベルによるコース分けを行う。	入学期間における自分の目標の理解と個人目標の策定。持参品の確認
2		演習	前期の授業内容を説明し各科目の明確な学習の目的、目標、方法を理解することが出来る	自己の現在の泳力を理解し、目標設定と練習頻度の設定を行う。
3		演習	水慣れと呼吸方法を理解する。	自己の現在の泳力を理解し、目標設定と練習頻度の設定を行う。
4		演習	ストリームラインの重要性を理解する。	自己の現在の泳力を理解し、目標設定と練習頻度の設定を行う。
5		演習	クロールキックが出来るようになる。	自己の現在の泳力を理解し、目標設定と練習頻度の設定を行う。
6		演習	クロールのプルが出来るようになる。	自己の現在の泳力を理解し、目標設定と練習頻度の設定を行う。
7		演習	クロールのキックとプルを合わせて泳ぐことが出来る。	技術レベルに合わせて、練習頻度と練習内容を確認し、更なる技術と体力の向上を目指し、授業外でも練習する。
8		演習	クロールで泳ぐスタミナをつけ、体力の向上を図る。	技術レベルに合わせて、練習頻度と練習内容を確認し、更なる技術と体力の向上を目指し、授業外でも練習する。
9		演習	背泳でのストリームラインを理解する。	技術レベルに合わせて、練習頻度と練習内容を確認し、更なる技術と体力の向上を目指し、授業外でも練習する。
10		演習	クロールのスタート出来るようになる。	技術レベルに合わせて、練習頻度と練習内容を確認し、更なる技術と体力の向上を目指し、授業外でも練習する。
11		演習	背泳のキックが出来るようになる。	技術レベルに合わせて、練習頻度と練習内容を確認し、更なる技術と体力の向上を目指し、授業外でも練習する。
12		演習	背泳のプルが出来るようになる。	技術レベルに合わせて、練習頻度と練習内容を確認し、更なる技術と体力の向上を目指し、授業外でも練習する。
13		演習	背泳のキックとプルを合わせて泳ぐことが出来る。	技術レベルに合わせて、練習頻度と練習内容を確認し、更なる技術と体力の向上を目指し、授業外でも練習する。
14		演習	背泳で泳ぐスタミナをつけ、体力の向上を図る。	夏季休暇中の個々の練習方法を確認する。
15		試験	200mクロールタイム測定、背泳泳力評価	完泳を目指し、練習の中でタイムを確認しておくこと。
準備学習 時間外学習			技術レベルによって授業外の練習を行う必要性を理解し、目標達成に必要な技術と体力の向上を促す。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	マリンスポーツ I 2	必修 選択	選択必須	年次	1	担当教員	原島大樹
学科・コース	エコ・コミュニケーション科 昼-3年制	授業 形態	演習	単位	1		
教員の略歴	ダイビング機材ショップスタッフを経験。現在は、サーフィンスクール代表取締役を務める。						
授業の学習 内容	ドルフィントレーナー、ガイド、インタープリター、インストラクターとしての必要な水泳スキルを身につける。 またそれら業務に従事する上で必要不可欠な体力を作る。 準備体操を行い人前に立つことに慣れ、プレゼンテーション能力の向上を目指す。 授業は100%実技。						
到達目標	技術と体力を養いクロールで400m泳ぐことが出来るようになる。 平泳ぎとサバイバルスイムの技術が出来るようになる。 サバイバルスイム(巻き足・潜水・特殊泳法)の技術が出来るようになる。 日々の生活の中で水中に入り、自身のコンディショニングが出来るよう生活習慣を身に着ける。 準備体操を通じ健康な身体の育成、コンディショニングの維持が出来るようになる。						
評価方法と基準	定期試験100%(実技) 400mクロールのタイムの測定。 平泳ぎの泳力評価(25m) 再試験は公欠が認められた物のみ対応する。 追試験1回 レポート課題(泳力向上について)を提示し、提出をもってCの評価とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	後期の授業内容を説明し各科目の明確な学習の目的、目標、方法を理解することが出来る。	大学前学習(アクティブラーニング)における学習の目標の理解と個人目標の策定。持参品の確認
2		演習	技術レベルによるコース分けを行う。	自己の現在の泳力を理解し、目標設定と練習頻度の設定を行う。
3		演習	平泳ぎのキックを理解する。	自己の現在の泳力を理解し、目標設定と練習頻度の設定を行う。
4		演習	平泳ぎのキックが出来るようになる。	自己の現在の泳力を理解し、目標設定と練習頻度の設定を行う。
5		演習	平泳ぎのプルを確認する。	自己の現在の泳力を理解し、目標設定と練習頻度の設定を行う。
6		演習	平泳ぎのプルが出来るようになる。	自己の現在の泳力を理解し、目標設定と練習頻度の設定を行う。
7		演習	平泳ぎのキックとプルを合わせて泳ぐことが出来る。	自己の現在の泳力を理解し、目標設定と練習頻度の設定を行う。
8		演習	平泳ぎのスタートを覚える。スタミナをつけ、更なる体力と泳力の向上を図る。	技術レベルに合わせて、練習頻度と練習内容を確認し、更なる技術と体力の向上を目指し、授業外でも練習する。
9		演習	サバイバルスイムの紹介(巻き足・潜水・特殊泳法)	技術レベルに合わせて、練習頻度と練習内容を確認し、更なる技術と体力の向上を目指し、授業外でも練習する。
10		演習	ヘッドアップクロールとオーストラリアンクロール サイドキックが出来るようになる。	技術レベルに合わせて、練習頻度と練習内容を確認し、更なる技術と体力の向上を目指し、授業外でも練習する。
11		演習	25m潜水が出来るようになる。	技術レベルに合わせて、練習頻度と練習内容を確認し、更なる技術と体力の向上を目指し、授業外でも練習する。
12		演習	巻き足が出来るようになる	技術レベルに合わせて、練習頻度と練習内容を確認し、更なる技術と体力の向上を目指し、授業外でも練習する。
13		演習	オープンウォーターを意識した呼吸法が出来るようになる。	技術レベルに合わせて、練習頻度と練習内容を確認し、更なる技術と体力の向上を目指し、授業外でも練習する。
14		演習	スタミナをつける。 水族館泳法が出来るようになる。	技術レベルに合わせて、練習頻度と練習内容を確認し、更なる技術と体力の向上を目指し、授業外でも練習する。
15		試験	400mクロールタイム測定、背泳泳力評価	完泳を目指し、練習の中でタイムを確認しておくこと。
準備学習 時間外学習			技術レベルによって授業外練習の必要性を理解し、目標達成に必要な技術と体力の向上を促す。	
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	水槽レイアウト I 1	必修 選択	選択必須	年次	1	担当教員 早坂誠
学科・コース	エコ・コミュニケーション科 昼ー3年制	授業 形態	演習	単位	1	
教員の略歴	ペットショップの店長。水草レイアウトや観賞魚水槽の制作・管理を行う企業の代表としても活躍中。					
授業の学習 内容	近年、自然環境を保全・維持する目線から、また癒しの空間を求めることが多くなったことに加え、水草が美しく管理・育成された水槽の需要が高まっている。個人宅はもちろんのこと、銀行や病院さらには水族館でも水草レイアウト水槽が展示されるようになり、その技術者が求められる時代となった。また、飼育用品基礎で学ぶ知識がこの授業でも多くの商品にかかわり合うために必要となること、制作工程において必要となる生体に対しても淡水魚研究が役立つ。この授業では、座学と共にレイアウト実習を通して水草レイアウト水槽のプロフェッショナルを目指す。実際に生物を使用するため内容に変更が出る場合がある。					
到達目標	閉鎖的水槽空間で、天然素材を使用してレイアウト構図を創ることが出来るようになる。 水草育成に最適な過システムの仕組みを学び、実際に使用できるようになる。 水槽内での水草育成において二酸化炭素の必要性を学び専用添加器具を実際に使用できるようになる。 水草が育成する最良の水質を学び、水槽内で調整できるようになる。 水草レイアウトの管理を行うことで、水槽管理の長期維持が出来るようになる。					
評価方法と基準	小テスト20% 定期試験80% 筆記試験評価: GPA(S100~90 A89~80 B79~70 C69~60 F59~0) 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回 同試験内容の実施、提出をもってCの評価とする。					

授業計画・内容						
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)	
1		講義	前期の授業内容を説明、科目日の最終目標の見本を画像を見ながら今後の授業を理解することができる。	水槽管理時に使用するホースの巻き方を実践・習得する。		
2		講義	水草水槽の全体的な循環とシステムの仕組みを理解することができる。	各自システムをイラストを含むレポート提出で授業内容の再確認する。		
3		演習	ガラスアクアリウム制作(石・流木などの天然素材での構図制作)を通じて、構図を理解し、実際の水槽レイアウト制作に反映することができる。	ガラスの選択と事前の構図案の制作		
4		演習	ガラスアクアリウム制作(水草植栽)を通じて、構図を理解し、実際の水槽レイアウト制作に反映することができる。	前回授業からの構図修正案と水草植栽のイメージデザインを事前制作		
5		講義・演習	外部式フィルターの仕組みと名称を理解して、設置から定期的な清掃・トラブル時の対応が出来る。	水草水槽のスズメ内、外部式フィルターの項目を事前予習。アクアariumでの可動状態の確認		
6		講義・演習	二酸化炭素添加装置の必要性と仕組みを学び実際に使用することができる。	水草水槽のスズメ内、二酸化炭素添加器具をイラスト記載提出		
7		講義	水草育成に必要な光の質と光量について理解することができる。	光の色に対してのケルビン値を事前把握する。現在ある、観賞魚用照明器具の数値を表にまとめる		
8		講義	水草の進化と分布拡散・遺伝的構造・保全について学び、どのような過程で水草が進化したか理解することができる。	水草水槽のスズメ内、水草図鑑の内容を理解、学名や特徴などの把握をおこなう。		
9		講義	水草育成に対して、底床素材の種類と特徴、使用方法を説明できる。	水槽レイアウトの班分けを決定		
10		講義	水生植物に必要な栄養素と添加方法を学び実践できる。	制作する水草レイアウトの参考見本の収集		
11		演習	水草レイアウト構図をイラストや文章などを用いて記することができる。	班ごとのレイアウトデザインの準備と修正・素材の収集		
12		演習	決定した構図を水槽レイアウトに反映することができる。	素材の選択と使用水草の準備を行う。		
13		演習	専用器具を使用して水草の植栽が実践できる。	水草植栽とレイアウト制作を時間外授業にあてる。		
14		講義・試験	テスト内容の予習・60分の筆記試験	試験範囲からの予習と対策		
15		講義	テスト結果からの振り返りを行うことで、水草レイアウトの制作・管理方法の理解を深める	試験範囲からの復習と教科書を再理解するための熟読。		
準備学習 時間外学習			事後学習を通じて深く学び、準備学習を行うことで授業内での学びの展開を促す。			
【使用教科書・教材・参考書】 * 指示した時のみスマートフォンなどの端末での検索を許可する。 教科書「水草水槽のスズメ」 参考資料「デュプラジャパン理想的な水槽」						

科目名	水槽レイアウト I 2	必修 選択	選択必須	年次	1	担当教員 早坂誠
学科・コース	エコ・コミュニケーション科 昼ー3年制	授業 形態	演習	単位	1	
教員の略歴	有限会社コデラペットショップ店長 / 有限会社エイチ・ツー代表取締役 / 渋谷店舗Sensuous代表					
授業の学習 内容	長期にわたっての水槽管理は観賞魚業界・水族館運営にとって最も大切な技術の一つになります。この授業は観賞魚飼育技術。水草育成技術のさらなるレベルアップをはかるとともに水槽長期維持におこる様々な問題を掘り下げて解決していけるように学びます。また、多くの器具を使用して管理技術を習得するため、飼育用品基礎の授業で学ぶ知識が、この授業でも必要になります。水族館や観賞魚業界の即戦力となるよう学習してください。授業は座学とともに大型水槽の管理実習を行い管理の正しい方法を学びます。 実際に生物を使用するため内容に変更がある場合があります。					
到達目標	観賞魚飼育・水草育成水槽を長期にわたって維持管理を行えるメンテナンス作業を習得することができる。 淡水水槽・海水水槽での藻類発生の原因を理解し、予防する技術、除去する技術を習得できる。 水 槽で起こりうる様々なトラブル問題、原因を理解して、対策を事前に行う技術・修繕する技術を習得することが できる。 水草育 成・サンゴの育成について正しい知識を理解することができる。					
評価方法と基準	小テスト20% 定期試験80% 筆記試験評価：GPA(S100～90 A89～80 B79～70 C69～60 F59～0) 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回 同試験内容の実施、提出をもってCの評価とする。					

授業計画・内容						
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)	
1	4月11日	講義	半期の授業内容を説明、当科目の最終目標の見本を画像を見ながら今後の授業を理解することができる。		実際の水槽管理時に起こった事例と解決方法のレポート提出	
2	4月25日	講義	水槽内で起こる白濁の原因を理解し予防と改善方法を述べることができる。		アクアリウムにおいて水草水槽管理を実践することで時間外学習に充当する。	
3	5月9日	演習・実技	ガラスアクアリウム制作(石・流木などの天然素材での構図制作)を昨年同様実施。構図の理解力をさらに深め実際の水槽レイアウト制作に反映できる。		ガラスの選択と事前の構図案の制作	
4	5月16日	演習・実技	ガラスアクアリウム制作(水草植栽)を昨年同様実施。構図の理解力をさらに深め実際の水槽レイアウト制作に反映できる。		前回授業からの構図修正案と水草植栽のイメージデザインを事前制作	
5	5月30日	講義	水草レイアウト水槽における藻類発生原因を理解して、防止策・予防策、改善策が実践できる。		実際に経験した藻類の発生原因と改善策のレポート提出	
6	6月13日	講義	水槽で起こる多種の水漏れ原因を理解し、現場で対応できる。		実際に経験した水漏れの発生原因と改善策のレポート提出	
7	6月20日	演習	水槽メンテナンス業で実際に使用している道具を理解説明することができる。		アクアリウムにおいて水草水槽管理を実践することで時間外学習に充当する。	
8	6月27日	講義	水草の進化と分布拡散・運送的構造・保全について学び、どのような過程で水草が進化したか理解することができる、 国立科学博物館田中法生先生講義		水草水槽のススメ内、水草図鑑の内容を理解、学名や特徴などの把握をおこなう。	
9	7月4日	演習	水槽メンテナンス業で実際に使用している道具を理解説明することができる。		アクアリウムにおいて水草水槽管理を実践することで時間外学習に充当する。	
10	7月11日	講義	水槽メンテナンス業で実際に使用している道具を使用、実践することができる。		メンテナンス道具使用時の問題点・改善点をレポート提出	
11	7月18日	講義	淡水魚水槽で使用する様々な添加剤の使用方法和効果を述べることができる。		現在まで使用した添加剤の種類と効果等の感想のレポート提出	
12	8月29日	講義	水槽メンテナンスに必要な薬品が使用できるようになる。		アクアリウムにおいて水草水槽管理を実践することで時間外学習に充当する。	
13	9月5日	実技	日本の湧水再現の大型水槽の構造を理解し説明することができる。		新社屋に設置予定の大型水槽の生体レイアウトイメージのアンケートを行う。	
14	9月12日	講義・試験	テスト内容の予習・60分の筆記試験		試験範囲からの予習と対策	
15	9月19日	講義	テスト結果からの振り返りを行うことで、長期間水槽メンテナンス方法の理解を深める		試験範囲からの復習と教科書を再理解するための熟読。	
準備学習 時間外学習			事後学習を通じて深く学び、準備学習を行うことで授業内での学びの展開を促す。			
【使用教科書・教材・参考書】 熱帯魚・水草図鑑3000種・各水草図鑑 教科書「水草水槽のススメ」 参考資料「デュブラジャパン理想的水槽」						

科目名	動物の健康管理 I 1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 本村伸子
学科・コース	エコ・コミュニケーション科昼ー3年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	1	
教員の略歴						
授業の学習 内容	近年、ペット業界においても「食育」という言葉が注目されてきている。市販のペットフードの商品の幅も広がってきていて、専門的な知識が求められる時代になってきている。犬たちの健康を考える上でも、個々の犬たちに合ったフードを選ぶ目を養ってほしいです。さらに、市販のペットフードだけに頼るのではなく、手作り食についてもオーナーに対して指導が出来るようになって欲しい。					
到達目標	市場で販売されているペットフードを適正に見極めて、良いフードを選べるようになる。犬のオーナーに対して食事の指導が出来るようになる。体調の変化やライフステージに応じた食事を検討して、提案できるようになる。					
評価方法と基準	定期試験100% 筆記試験					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	食事の大切さを学び、自分の生活を見直すことが出来る	学生自身の普段の生活と食事について考える
2		講義	ペットフードの選び方①:学校犬が食べているドッグフードの内容を判断できる	
3		講義	ペットフードの選び方②:ペットフードのメリットを理解する	ペットショップに行って、どのようなフードが売られているかを調査する
4		講義	ペットフードの選び方③:ペットフードのデメリットを理解する	
5		講義	ペットフードの選び方④:ペットフードのデメリットを理解する	担当している犬たちの食事を調査
6		講義	ペットフードの選び方⑤:酸化防止剤の意味を理解する	
7		講義	ペットフードの選び方⑥:様々な添加物について理解する	
8		講義	ペットフードの選び方⑦:原材料の問題点を考える	担当している犬たちの食事の問題点を考える
9		講義	ペットフードの選び方⑧:手作り食との併用を理解する	
10		講義	手作りご飯の基本①:骨や肉を生で与える場合の注意点を理解する	
11		講義	手作りご飯の基本②:穀類を与える場合の注意点を理解する	
12		講義	手作りご飯の基本③:動物性食品の特徴を理解する	
13		講義	手作りご飯の基本④:動物性食品の特徴を理解する	試験範囲内容をきちんとまとめる
14		試験	筆記試験	
15		講義	テスト結果の振り返り	試験の結果を振り返り間違った箇所を復習
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】「もう迷わないペットの健康ごはん」				

科目名	動物の健康管理 I 2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	黒葛原 真実
学科・コース	エコ・コミュニケーション科昼-3年制	授業 形態	講義	単位	1		
教員の略歴	ドルフィントレーナーとしてふれあい施設に勤務し、現在はダイビングショップ・潜水作業を行う会社を運営している。						
授業の学習 内容	①水族館等で扱われている海洋哺乳類について知り、その生態や特徴、飼育管理に必要な事を学び理解することができる。 ②水族館、ふれあい施設をはじめその他マリン業界や動物園業界等様々な方向性の中でどのように自分は関わりたいのか、その上では何が必要なのかを見極め、考えていくことができる。 ③授業手法は主に「講義」「筆記」「映像鑑賞」「オリエンテーション」で展開。						
到達目標	①水族館やふれあい施設等において動物の飼育・管理に関わる上で、扱われている海洋哺乳類の基礎的な生態、健康管理に必要な知識を中心に身につけ実践に役立てることができる。 ②水族館・マリン業界を始め、海に関わる仕事内容を知り理解することができる。 ③座学や業界実習を重ね、二年時に上がる上である程度の方向性を確立できる。 ④『人前で話す力、人に伝える力などのコミュニケーション力』を身につける。						
評価方法と基準	定期試験 60% 出席率 40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	授業の概要・目的説明・目標設定・自己紹介	/最も印象に残った自己紹介
2		講義	海洋哺乳類に関わる仕事を考える・知る	どんな仕事があるかノートに書く/最も興味を持った仕事について調べる(業務内容、年収、なるために必要なこと、資格等)
3		演習	伊豆実習	ホイッスル練習/レポート
4		講義	海の哺乳類 I (鯨類)について理解できる	好きな鯨類一種をイラストで描く/ミニテスト
5		演習	スキンドайビングの習得ができる	目標設定/振り返り
6		講義	海の哺乳類 II (鰐脚類)について理解できる	好きな鰐脚類一種をイラストで描く/ミニテスト
7		講義	海の哺乳類 III (海牛類)について理解できる	好きな海牛類一種をイラストで描く/ミニテスト
8		講義	海の哺乳類 IV (その他の海洋哺乳類)について理解できる	日本の水族館で飼育されているその他の海洋哺乳類を調べ書く/ミニテスト
9		講義	海の鳥類について理解できる	好きなペンギン一種をイラストで描く/ミニテスト
10		講義	餌料について理解できる①	サバ・アジ・サンマ・ホッケ・シシャモを見分ける /上記の魚一種以上を食す、できれば丸魚を見る、触る
11		講義	餌料について理解できる②	前回の課題の感想・まとめ/ミニテスト
12		講義	初期飼育について理解できる①	水族館に来るまでの経緯を調べる/まとめ
13		講義	初期飼育について理解できる②	イルカの輸送方法を調べる/まとめ
14		試験		試験範囲の学習/まとめ
15		講義		分からなかったところの復習
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	動物の体のしくみ I 1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 岩田光一
学科・コース	エコ・コミュニケーション科 昼-3年制	授業 形態	講義	単位	1	
教員の略歴	獣医師・学芸員の資格を活かし、動物園では園長を務めた経験もあり。					
授業の学習 内容	動物の生理、形態(解剖学的)、飼料などを中心に基本的な部分を中心に一年を通して学びます。動物による比較や人間との比較も動物園やそこで働くスタッフの意義やいくつかの動物園の写真をしながら解説を行う。					
到達目標	一年の講義にて動物の体の基礎を学ぶことにより動物を飼育する際に応用できるようにする。基本を知ることにより動物の異常をより早く発見できるようにする。動物を取り扱う者として飼育技術知識の習得やその説明などができるようにする。またこれによりどういった展示をし、どんなスタッフになるかを考えられる基本を作っていく。					
評価方法と基準	定期試験100% 筆記試験評価: GPA(S100~90 A89~80 B79~70 C69~60 F59~0) 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回 レポート課題(教材からの抜粋)を提示し、提出をもってCの評価とする。					

授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)
1		講義	動物園はみんなにとってどんな所?動物園での仕事は?動物園についての授業って?		自身が思う動物園像や自身の夢などをいつでも話せるように整理しておいて下さい。(年間を通して)
2		講義	(公社)日本動物園水族館協会とは?		
3		講義	動物に関する社会的環境		
4		講義	生理学とは?生体の構成や基本的生命現象について		
5		講義	動物の体(骨格での動物比較や人間との違い)		
6		講義	神経(中枢神経と末梢神経)と筋肉(骨格筋、平滑筋、心筋)		
7		講義	血液(成分、役割、血液型など)ならびに血液循環について		
8		講義	消化について(口腔内消化、胃内消化)		
9		講義	消化について(小腸内消化、大腸内消化)		
10		講義	胸腔内臓器、腹腔内臓器、肝臓と腎臓の機能		
11		講義	体温について		
12		講義	前期講義まとめ		
13		講義	前期講義まとめ		
14		試験			
15		講義	試験解説		
準備学習 時間外学習			動物の生息地の環境(気候、地形、文化など)を意識し博物館や植物園などにも行って下さい。		
【使用教科書・教材・参考書】					
新飼育ハンドブック動物園編 1~5					

科目名	動物の体のしくみ I 2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	藤田智子
学科・コース	エコ・コミュニケーション科 昼一3年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	1		
教員の略歴	日本大学農獣医学部卒業後、千葉県鴨川シーワールド入社。海獣飼育員として勤務。						
授業の学習 内容	基本的な動物の体の構造や骨格、生理的な知識を学ぶ						
到達目標	飼育環境の改善、体調不良の原因を考えられるようになればよい。						
評価方法と基準	定期試験 80% 出席率 20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	10月2日	講義	胃のはたらきについて説明できる	食事の量について考える
2	10月9日	講義	肝臓、胆のう、すい臓の分泌物について説明できる	血糖値について調べる
3	10月16日23日	実習	和歌山	
4	10月30日	講義	腎臓のはたらきを説明できる	塩分のとり方を考える
5	11月6日	講義	気管・気管支・肺のはたらきを説明できる	深呼吸について考える
6	11月13日	講義	生殖器のつくりを説明できる	陰茎の形を調べる
7	11月20日	研修	オーストラリア	
8	11月27日	講義	生殖器のつくりを説明できる	排卵について調べる
9	12月4日	講義	骨格のつくりを説明できる	骨の形を調べる
10	12月11日	講義	〃	骨盤のつくりを調べる
11	12月18日	講義	頭蓋骨と耳骨を説明できる	自分の声を認識してみる
12	12月25日	講義	眼球を説明できる	暗い所での視力について調べる
13	1月15日	講義	まとめ	
14	1月22日	講義	筆記試験	
15	1月29日	講義	振り返り	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
JESC動物の体のしくみ				

科目名	動物行動学	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	宮川
学科・コース	エコ・コミュニケーション科屋一3年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	1		
教員の略歴	①獣医師						
授業の学習 内容	この授業は動物の種類による特徴を理解し、適切な飼育やしつけの基本的な知識を身につけることが目的です。専門的な用語や原理を説明できるようになり、近年問題になっている「問題行動」の予防への理解にもつながります。						
到達目標	1) 動物の発生活起源、種類による特徴を知り、基本的な行動様式、適切な飼育環境、しつけの原理を理解する 2) 近年問題となっている「問題行動」の予防の必要性を理解する 3) 行動学における専門的な言葉が説明できる						
評価方法と基準	定期試験100%(14週目に筆記試験を実施)						

授業計画・内容						
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)	
1		講義	動物行動学の歴史を振り返り、概念を理解する		授業ノート、配布資料を見直す	
2		講義	犬猫の発生活起源と人との関わりを理解する		授業ノート、配布資料を見直す	
3		講義	産業動物の起源、人との関わりを理解する		授業ノート、配布資料を見直す	
4		講義	摂食、排泄など生きるための維持行動を理解する		授業ノート、配布資料を見直す	
5		講義	群や繁殖を中心に社会行動を理解する		授業ノート、配布資料を見直す	
6		講義	コミュニケーションを中心に社会行動を理解する		授業ノート、配布資料を見直す	
7		講義	動物が行動を起こす原理を理解する(ホルモンなど)		授業ノート、配布資料を見直す	
8		講義	動物が行動を起こす原理を理解する(季節性など)		授業ノート、配布資料を見直す	
9		講義	しつけに適する社会化期について理解する		授業ノート、配布資料を見直す	
10		講義	具体的なしつけの原理を理解する		授業ノート、配布資料を見直す	
11		講義	犬の特徴や問題行動について理解する		授業ノート、配布資料を見直す	
12		講義	猫の特徴や問題行動について理解する		授業ノート、配布資料を見直す	
13		講義	1～12週までの授業内容を復習する		総復習の問題を解く	
14		講義	筆記試験		試験範囲の復習	
15		講義	試験問題の解説を通してこれまでの授業を振り返る		試験で間違った部分の復習	
準備学習 時間外学習		授業ノートや配布資料を整理・復習・新しい言葉を調べる				
【使用教科書・教材・参考書】 筆記用具						

科目名	動物行動学 I 1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 山本 聡
学科・コース	エコ・コミュニケーション科 昼一 (3年制)	授業 形態	講義	総時間 (単位)	1	
教員の略歴	ケゾロ海洋哺乳類研究所およびハワイ大学海洋生物研究所研究員兼トレーナー、沖縄海洋研究所飼育顧問、あわしまリパーク飼育顧問、南知多ビーチランド飼育・研究アドバイザー、海洋哺乳類エデュケーションセンター代表理事					
授業の学習 内容	飼育動物のトレーニングはショーをしたり、ヒトの望むように行動させたりするためではなく、動物の健康管理・医療を行う、動物のいだく不安や恐怖を取り除くなどのために絶対必要なことである。近年は野生動物の保全にも役立てられている。こうしたトレーニングをするためにはレスポンド条件付けやオペラント条件付けなどの知識、それらの理論に基づく技術を身につけなければならない。本授業ではこれらについて学ぶ。また本授業を通して専門的な文献は英語で書かれたものしかないこと、最先端の理論・技術は英語でしか学べないことを認識し、英語力をつける努力をするようになってもらいたい。また「習う」「覚える」「聞き取る・書きとる」という態度ではなく「調べる」「考える」「ポイントをつかむ・まとめる」という態度を持つようになってもらいたい。					
到達目標	なぜ飼育動物をトレーニングしなければならないか、主な5つの理由を重要さの順に説明できる。動物と心理的、社会的な絆を築くうえで何が必要か説明できる、何をしなければいけないかを理解する。条件刺激としてのブリッジの機能を説明できる。不定率強化はどのように行うか、なぜ動物のトレーニングに適しているか、どのようなときに用いるか、何に気をつけなければならないか説明できる。動物のトレーニングや動物飼育において満たされるべき事項、強化子の多様性、動物の自主性の尊重、トレーニングの非予測性とはどのようなことなのか考えられるようになる。					
評価方法と基準	出席率・授業態度: 20% 前期試験: 80% 筆記試験評価: GPA(S100~90 A89~80 B79~70 C69~60 F59~0) 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回 レポート課題(教材からの抜粋)を提示し、提出をもってCの評価とする。					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備・時間外学習課題
1		講義	授業の受け方、ノートの取り方などを説明する。学生の進路希望のヒアリングする。	今年の自分の目標について考え、今年1年の生活・学習などの計画をたてる。
2		講義	なぜ飼育動物をトレーニングしなければならない主要な目的を重要性の順に説明できる。	まとめノートの作成
3		講義	グローバルなトレーナーになることの重要性和グローバルなトレーナーの役割を認識できる。	まとめノートの作成
4		講義	なぜ水族館や動物園におけるエンターテインメントが重要かを論じられる、また事例ビデオ	まとめノートの作成
5		講義	情動・欲求・記憶・知覚・認知・反応(行動)の相互作用のメカニズムを理解する。	まとめノートの作成
6		講義	レスポンド条件付けを具体的に説明できる。条件反応とトレーニングの関係を説明	まとめノートの作成
7		講義	ブリッジが条件刺激であることを理解し、ブリッジの機能を説明できる。	まとめノートの作成
8		講義	オペラント条件付けが成立するための必須条件、強化と罰によって動物の行動にどの	まとめノートの作成
9		講義	なぜ正の強化のみで動物のトレーニングが可能かを理解し、その理由を説明できる。	まとめノートの作成
10		講義	連続強化と間歇強化の違い、連続強化を使わなければならない場合と間歇強化が望ま	まとめノートの作成
11		講義	不定率強化の行い方、なぜ不定率強化が動物のトレーニングに適しているかを説明でき	まとめノートの作成
12		講義	強化の基準の設定・維持の仕方を説明できる。強化子の多様性の重要性を認識し、論	まとめノートの作成
13		講義	トレーナーに対するサイン出し・ブリッジング・強化のトレーニングの行い方を知り、ト	まとめノートの作成
14		前期試験	前期の講義内容の理解度、学生の知識の体制化・説明力・日本語力を確認する。	小グループで試験の準備学習を行う。
15		講義	学生の理解度が十分でない事項を中心に、全ての学生が試験に出された項目を正しく	自己の試験結果と解答解説をもとに、自己のまとめノートに加筆・修正などを行う。
準備学習 時間外学習		毎回の授業中に作ったノートに基づき、長くわからなかったこと、疑問に思ったこと、興味を持ったことについて自分で調べ、それらを整理しまとめたものを自分のことばで書いたまとめ		
【使用教科書・教材・参考書】使用教科書は特になし。参考となるものは① "Animal Training" (著者) SeaWorld Parks & Entertainment (https://seaworld.org/animals/all-about/training/)、② "Zoomility" (著者) Grey Stafford(出版社) An iReinforce.com book				

科目名	動物行動学 I 2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 山本 聡
学科・コース	エコ・コミュニケーション科 1 3 年制	授業 形態	講義	総時間 (単位)	1	
教員の略歴	ケアワイルド海洋哺乳類研究所およびハワイ大学海洋生物研究所研究員兼トレーナー、沖縄海洋研究所飼育顧問、あわしまマリンパーク飼育顧問、南知多ビーチランド飼育・研究アドバイザー、海洋哺乳類エデュケーションセンター代表理事					
授業の学習 内容	飼育動物のトレーニングはショーをしたり、ヒトの望むように行動させたりするためではなく、動物の健康管理・医療を行う、動物のいだく不安や恐怖を取り除くなどのために絶対必要なことである。近年は野生動物の保全にも役立てられている。こうしたトレーニングをするためにはレスポンド条件付けやオペラント条件付けなどの知識、それらの理論に基づく技術を身につけなければならない。本授業ではこれらについて学ぶ。また本授業を通して専門的な文献は英語で書かれたものしかないこと、最先端の理論・技術は英語でしか学べないことを認識し、英語力をつける努力をするようになってもらいたい。また「習う」「覚える」「聞き取る・書きとる」という態度ではなく「調べる」「考える」「ポイントをつかむ・まとめる」という態度を持つようになってもらいたい。					
到達目標	動物のトレーニングにおける一貫性とはどのようなことが説明できる。動物のトレーニングに罰を用いることの出来ない、倫理的根拠と理論的根拠を論ずることができる。LRSの行い方とABC分析の適用の仕方を説明できる。間違ったタイムアウトの考え方とリコールの用い方を指摘でき、適切なタイムアウトとリコールの用い方を説明できる。動物の生存年数・確率を向上させ、自然繁殖を確実に成功させるためにはどのような考え方、どのようなことが必要か説明できる。					
評価方法と基準	出席率・授業態度: 20% 前期試験: 80% 筆記試験評価: GPA(S100~90 A89~80 B79~70 C69~60 F59~0) 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回 レポート課題(教材からの抜粋)を提示し、提出をもってCの評価とする。					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	前期の授業、前期・夏季の生活についてヒアリング、前期の授業内容の理解度を確認	自己の目標を見つめ直し、後期の自己の学習・生活計画を立て直す。
2		講義	トレーニングにおける一環性、非予測性の重要性を理解し、一貫性と非予測性について	まとめノートの作成
3		講義	脱感作の3つの目的と必要性を説明できる。馴化とはどのような神経生理学的現象な	まとめノートの作成
4		講義	直接的・物理的な嫌悪刺激のやり方、不安や恐怖を感じさせるものに対する脱感作の	まとめノートの作成
5		講義	触れ合いプログラムにおいて何を脱感作しなければならぬか考えられる。	まとめノートの作成
6		講義	全ての動物に自然に起きる罰とはどのようなものか理解し、トレーニングに罰も用いる	まとめノートの作成
7		講義	飼育下において自傷行動、常同行動、吐き戻し、アグレッションが起きる主な原因と基本	まとめノートの作成
8		講義	ABC分析の基本概念を理解し、動物の問題行動に対してどのように用いるか説明でき	まとめノートの作成
9		講義	DRILRSそれぞれとそれぞれの目的と行い方を説明できる。	まとめノートの作成
10		講義	タイムアウトとリコールの目的と用い方を説明できる。	まとめノートの作成
11		講義	鯨類、鰭脚類の飼育施設デザインにおいて満たされるべき主要な要件を説明できる。	まとめノートの作成
12		講義	これからの海洋哺乳類の飼育・トレーニングの主な課題にどのようなものがあるか理解	まとめノートの作成
13		講義	動物とのシンボリックなコミュニケーションが可能であることを過去の研究成果を学び、	まとめノートの作成
14		後期試験	後期の講義内容の理解度、学生の知識の体制化・説明力・日本語力を確認する。	小グループで試験の準備学習を行う。
15		講義	学生の理解度が十分でない事項を中心に、全ての学生が試験に出された項目を正しく	自己の試験結果と解答解説をもとに、自己のまとめノートに加筆・修正などを行う。
準備学習 時間外学習		毎回の授業中に作ったノートを中心に、長くわからなかったこと、疑問に思ったこと、興味を持ったことについて自分で調べ、それらを整理しまとめたものを自分のことばで書いたまとめ		
【使用教科書・教材・参考書】使用教科書は特になし。参考となるものは① "Animal Training" (著者) SeaWorld Parks & Entertainment (https://seaworld.org/animals/all-about/training/)、② "Zoomility" (著者) Grey Stafford(出版社) Animal Reinforce.com book				

科目名	動物飼育演習 I 1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	江口仁 詞
学科・コース	エコ・コミュニケーション科 昼-3年制	授業 形態	演習	総時間 (単位)	1		
教員の略歴	日本動物植物専門学校獣医看護科卒、OMファーム岩村、犬猫ハウスパピー、A&Fカントリー勤務、NCA教務部、TCA教務部						
授業の学習 内容	<p>観賞魚の基本的な飼養管理は、飼育展示・販売、又は接客に必要な不可欠な授業です。 また、淡水魚研究、海水魚研究の授業で魚種別の生息環境を学び、人工飼育を可能にする為の知識・技術です。 より多くの水生生物を長く健康に飼育し、適正に安全に流通させることができるプロとなれるよう、学習してください。 授業は座学が中心ですが、実験を通じて水質の違いや、機材の正しい使用方法を学習します。</p> <p>※実際に生き物を使用する授業のため、内容に変更がある場合があります。</p>						
到達目標	<p>淡水の水質を調整し、地域によって異なる環境を作ることができる。 4大観賞魚産地の、代表的な水質を理解する。 その水質を、水道水を元に作るようになる。 海水魚の基本となる人工海水を正しく作るようになる。 窒素還元の循環システムを組み立てることができる。</p>						
評価方法と基準	<p>小試験ト20% 定期試験ト80% 筆記試験評価：GPA(S100～90 A89～80 B79～70 C69～60 F59～0) 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回 レポート課題(教材からの抜粋)を提示し、提出をもってCの評価とする。</p>						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	半期の授業内容を説明し、当科目の明確な学びの目的、目標、方法を理解することができる。	入学前オリエンテーションにおける3つの週間の理解と個人目標の策定
2	講義	飼育マニュアルの説明から、飼育方法だけではなく、展示の目的、目標、方法を理解することができる。	準備学習：入学前オリエンテーションにおける個人目標の策定から、校内での飼育の目的、目標の共通点を確認する。
3	講義・演習	魚の正しい扱い方を学び、水槽内での捕獲～酸素を使い安全に輸送できる技術を身に付ける。	熱帯魚3200種図鑑を使用しアクアariumの魚種の比較と同定を行う。50～100種
4	講義・演習	観賞魚の生息地域の特性から、魚種の特徴を理解する。南米アマゾン流域・東南アジアオセアニア・アフリカ	
5	講義・演習	観賞魚の飼育水を作れるようになる為に、実験を行い水道水と飼育水の違いを理解する。	飼育マニュアルの熟読と実践をアクアariumの飼育当番・補助の作業内で行い、時間外学習に充当する。
6	講義・演習	観賞魚の飼育水を管理する為に、実験を通じより効率よく換水を行えるようになる(サイフォン)	
7	講義・演習	観賞魚の飼育管理を行う為に、実験を通じてPHIによる水質の違いを理解する。	
8	講義	海水魚の飼育管理を行う為に、塩分濃度を理化して人工海水から飼育水を作ることができる。	
9	講義	観賞魚の飼育管理を行う為に、硝化作用とPHの関係を理解し、実践できるようになる。	
10	講義	観賞魚の飼育管理を行う為に、水質を変化させる要因を理解し、PHをコントロールできるようになる。	観賞魚飼育・管理士ハンドブック8p～15pの熟読と理解
11	講義	安定した水質維持の為に、水槽内の窒素の循環サイクルを理解できるようになる。硝化と窒素還元	指定したロープワークの実践と、夏季休暇中の採取実践を行う。
12	講義・演習	魚類の行動の観察方法 野生の魚を捕獲する漁法を知り、ミャク釣りの仕掛けを作る。	
13	講義	NH3/NO2/NO3の測定方法、比重の計り方を理化し、水質測定が行えるようになる。	アクアariumの飼育当番・補助の作業を時間外学習に充当する。
14	講義・試験	テスト対策・60分の筆記試験	試験範囲からの予習と対策
15	講義	テスト結果からの振り返りを行うことで、水質と飼育管理の理解を深める	試験範囲からの復習と飼育マニュアルの熟読
準備学習 時間外学習		事後学習を通じてより深く学び、事前学習を行うことで授業内での学びの展開を促す	
【使用教科書・教材・参考書】 熱帯魚3200種図鑑/鑑賞魚飼育・管理士ハンドブック/鑑賞魚飼育・管理士ハンドブックⅡ			
※指示をした時のみ、タブレット端末などでの検索を許可する。			

科目名	動物飼育演習 I 2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	江口仁 詞
学科・コース	エコ・コミュニケーション科 昼-3年制	授業 形態	演習	総時間 (単位)	1		
教員の略歴	日本動物植物専門学校獣医看護科卒、OMファーム岩村、犬猫ハウスパピー、A&Fカントリー勤務、NCA教務部、TCA教務部						
授業の学習 内容	<p>観賞魚の基本的な飼育管理は、飼育展示・販売、又は接客に必要な不可欠な授業です。 また、淡水魚研究、海水魚研究の授業で魚種別の生息環境を学び、人工飼育を可能にする為の知識・技術です。 より多くの水生生物を長く健康に飼育し、適正に安全に流通させることができるプロになれるよう、学習してください。 授業は座学が中心ですが、実験を通じて水質の違いや、機材の正しい使用方法を学習します。</p> <p>※実際に生き物を使用する授業のため、内容に変更がある場合があります。</p>						
到達目標	<p>窒素還元の循環システムを組み立てることができる。 代表的な魚病の特徴と発生理由を理解することができる。 代表的な魚病に使う薬品を知り、正しくしようできるようになる。 基本的な機材の管理を身につけ、2019年10月～2020年9月までの飼育管理の中で起るトラブルに対応が出来るようになる。</p>						
評価方法と基準	<p>小試験ト20% 定期試験ト80% 筆記試験評価：GPA(S100～90 A89～80 B79～70 C69～60 F59～0) 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回 レポート課題(教材からの抜粋)を提示し、提出をもってCの評価とする。</p>						

授業計画・内容			
回数	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	講義	安定した水質維持のために、自然界における窒素の循環サイクルを理解できるようになる。硝化と窒素還元	アクアariumの飼育当番・補助の作業を時間外学習に充当する。
2	講義・演習	水槽内でのトラブルの対応 (魚病) 濃度の単位%、‰、ppmを学び、基本的な薬品の希釈と投薬ができるようになる	観賞魚飼育・管理士ハンドブック31p～56pの熟読と理解。
3	講義	水槽内でのトラブルの対応 (魚病) 白点病/ウーディニウム病の予防と治療を説明できる	
4	講義	水槽内でのトラブルの対応 (魚病) ミズカビ・細菌感染の予防と治療を説明できる。	
5	講義	両生類の飼育管理 魚類の飼育管理技術を活かし代表的な有尾目・無尾目の飼育に応用ができる。	爬虫類室の飼育当番・補助の作業を時間外学習に充当する。
6	講義	両生類の飼育管理 魚類の飼育管理技術を活かし代表的なカメ目、有鱗目の飼育に応用ができる。	
7	講義	観賞魚・両生爬虫類の生き餌の飼育管理を正しく行い、安全に保管できる方法を実践できる。	観賞魚飼育・管理士ハンドブック43p～49pの熟読と理解。
8	講義	野菜・冷凍餌・配合飼料の管理と基本的な保管方法と調餌方法、衛生管理が行えるようになる。	オーストラリアへの海外研修を持って充当する。
9	講義・演習	オーストラリア・オセアニア地域の魚類・両生爬虫類を学び、飼育管理に生かすことができる。	
10	講義	ガラス水槽とアクリル水槽の特徴の違いを学び、展示する生体によるトラブルを防ぐ。	理解と提出レポートの作成
11	講義	ガラスとアクリルの基本的な管理・加工を学び、展示する生体によるトラブルを防ぐ。	
12	講義	塩パイプによる配管の方法と加工を学び、飼育管理に活用することができる。	アクアariumの飼育当番・補助の作業を時間外学習に充当する。
13	講義	エアーポンプとフロアーのメンテナンスを学び、飼育管理に活用することができる。	
14	講義・試験	テスト対策・60分の筆記試験	試験範囲からの予習と対策
15	講義	テスト結果からの振り返りを行うことで、水質と飼育管理の理解を深める	アクアariumの飼育当番・補助の作業を時間外学習に充当する。
準備学習 時間外学習		事後学習を通じてより深く学び、事前学習を行うことで授業内での学びの展開を促す	
【使用教科書・教材・参考書】			
鑑賞魚飼育・管理士ハンドブック／鑑賞魚飼育・管理士ハンドブックⅡ ※指示をした時のみ、タブレット端末などでの検索を許可す			
東京コミュニケーションアート専門学校			

科目名	馬学 I 1	必修 選択	選択必須	年次	1	担当教員 長嶺幸介
学科・コース	エコ・コミュニケーション科 昼一3年制	授業形態	講義	総時間 (単位)	1	
教員の略歴	牧場、ペットショップスタッフ経験を経て、現在は移動動物園スタッフとしても活動中。					
授業の学習 内容	馬を扱う業種は牧場、観光牧場、動物園、移動動物園、乗馬クラブ、ペットショップなど、多岐にわたり、基本的な知識や取扱を学ぶことは必須事項の一つである。また、馬は、畜産動物の中でも、人との関わり方が特殊であり、大型動物を扱う上での基礎を学ぶことに繋がる。馬をできるだけ理解しようと努め、適切な取扱と飼養管理ができるようにするため、映像や実物の馬具、ロープワークなどを取り入れ、経験したことを実例としながらわかり易い内容にする					
到達目標	人との関わりや歴史、習性や行動を含む生態などの理解。馬体名称や個体識別法、悪癖などを理解し、基本的な管理ができる。仕事に必要なロープワーク技術を身につける。馬具を知り、適切に使用できる。これらの内容を踏まえ、基本的な知識と技術を習得し、適切な取扱と飼育管理ができることを目標とする。					
評価方法 と基準	定期試験100% 筆記試験評価:GPA(S100~90 A89~80 B79~70 C69~60 F59~0) 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回 レポート課題(教材からの抜粋)を提示し、提出をもってCの評価とする。					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月15日	講義	馬と人の関わりについて理解できる	馬について自分で持つイメージを一言でまとめる
2	4月22日	講義	馬の分類・品種などについて理解できる	前回の授業のノートを必ず読む
3	5月13日	講義	馬の食性と飼料について理解できる	前回の授業のノートを必ず読む
4	5月20日	講義	馬の食性以外の習性について理解できる	前回の授業のノートを必ず読む
5	5月27日	講義	感覚器の構造と特徴について理解できる	前回の授業のノートとプリントを必ず読む
6	6月3日	講義	馬体の特徴や、名称、蹄と削蹄・装蹄などについて理解できる	前回の授業のノートとプリントを必ず読む
7	6月10日	講義	馬の保定方法と必要な道具と使い方を理解できる。	前回の授業のノートとプリントを必ず読む
8	6月17日	演習	ロープワーク技術を身につける。	前回の授業のノートとプリントを必ず読む
9	6月24日	演習	ロープワーク技術を身につける。	前回の授業で行ったロープの結び方を家で必ず復習してくる
10	7月1日	講義	飼養する馬の登録について理解できる	前回の授業で行ったロープの結び方を家で必ず復習してくる
11	7月8日	講義	馬の個体識別方法について理解できる	前回の授業のノートとプリントを必ず読む
12	7月22日	講義	馬の悪癖について理解できる	前回の授業のノートとプリントを必ず読む
13	9月2日	講義	馬具の名称と使用方法を理解し正しく扱うことができる	前回の授業のノートとプリントを必ず読む
14	9月9日	試験	筆記試験	前回までの授業のノートとプリント必ず読む
15	9月16日	講義	乗馬について、形式や騎乗者資格などについて理解できる	前回までの授業のノートとプリント必ず読む
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
教科書はなし 必要に応じて随時参考資料等を使用 馬具や手入れ道具・ロープ・ビデオなどを使用				

科目名	馬学 I 2	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員	長嶺幸介
学科・コース	エコ・コミュニケーション科 昼一3年制	授業形態	講義	総時間 (単位)	1		
教員の略歴	牧場、ペットショップスタッフ経験を経て、現在は移動動物園スタッフとしても活動中。						
授業の学習 内容	馬を扱う業種は牧場、観光牧場、動物園、移動動物園、乗馬クラブ、ペットショップなど、多岐にわたり、基本的な知識や取扱を学ぶことは必須事項の一つである。また、馬は、畜産動物の中でも、人との関わり方が特殊であり、大型動物を扱う上での基礎を学ぶことに繋がる。馬をできるだけ理解しようと努め、適切な取扱と飼養管理ができるようにするため、映像や実物の馬具、ロープワークなどを取り入れ、経験したことを実例としながらわかり易い内容にする						
到達目標	人との関わりや歴史、習性や行動を含む生態などの理解。馬体名称や個体識別法、悪癖などを理解し、基本的な管理ができる。仕事に必要なロープワーク技術を身につける。馬具を知り、適切に使用できる。これらの内容を踏まえ、基本的な知識と技術を習得し、適切な取扱と飼育管理ができることを目標とする。						
評価方法 と基準	定期試験100% 筆記試験評価:GPA(S100~90 A89~80 B79~70 C69~60 F59~0) 再試験は公欠が認められた者のみ対応する。 追試験1回 レポート課題(教材からの抜粋)を提示し、提出をもってCの評価とする。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	馬と人の関わりについて理解できる	馬について自分で持つイメージを一言でまとめる
2		講義	馬の分類・品種などについて理解できる	前回の授業のノートを必ず読む
3		講義	馬の食性と飼料について理解できる	前回の授業のノートを必ず読む
4		講義	馬の食性以外の習性について理解できる	前回の授業のノートを必ず読む
5		講義	感覚器の構造と特徴について理解できる	前回の授業のノートとプリントを必ず読む
6		講義	馬体の特徴や、名称、蹄と削蹄・装蹄などについて理解できる	前回の授業のノートとプリントを必ず読む
7		講義	馬の保定方法と必要な道具と使い方を理解できる。	前回の授業のノートとプリントを必ず読む
8		演習	ロープワーク技術を身につける。	前回の授業のノートとプリントを必ず読む
9		演習	ロープワーク技術を身につける。	前回の授業で行ったロープの結び方を家で必ず復習してくる
10		講義	飼養する馬の登録について理解できる	前回の授業で行ったロープの結び方を家で必ず復習してくる
11		講義	馬の個体識別方法について理解できる	前回の授業のノートとプリントを必ず読む
12		講義	馬の悪癖について理解できる	前回の授業のノートとプリントを必ず読む
13		講義	馬具の名称と使用方法を理解し正しく扱うことができる	前回の授業のノートとプリントを必ず読む
14		試験	筆記試験	前回までの授業のノートとプリント必ず読む
15		講義	乗馬について、形式や騎乗者資格などについて理解できる	前回までの授業のノートとプリント必ず読む
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
教科書はなし 必要に応じて随時参考資料等を使用 馬具や手入れ道具・ロープ・ビデオなどを使用				

科目名	爬虫類両生類学 I 1	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	菅野宏 文
学科・コース	エコ・コミュニケーション科 昼ー3年制	授業 形態	講義	単位	1		
教員の略歴	学芸員として現場での動物管理経験あり。また現在は執筆活動を主に行っており、多数著書あり。						
授業の学習 内容	両生・爬虫類の形態・生理・生態学的特徴及び最新の両生・爬虫類の分類。一般的にショップ等で取り扱われる種の飼育法(総論・各論)、及び保定・制御法の実践。 金魚・メダカの飼育法(品種の紹介、繁殖等も含む。)、甲虫類の飼育管理法(繁殖・取り扱い・標本作成等。)						
到達目標	一般的にペットショップなどで取り扱われている種類に関しては、正しい飼育方法及び取り扱い方を習得して、又動物園・水族館等で飼育される大型・希少種に対してもある程度応用しながら対応できる様に知識・技術を身につける。またペットの多様化により、甲虫類・メダカ・金魚の飼育法も行う。						
評価方法と基準	出席率・試験成績により判断する。出席率70%以上の学生には2点、80%以上の学生には3点、90%以上の学生には5点、筆記試験に加点する。 筆記試験との合計で、80点以上がA評価、70点以上がB評価、60点以上がC評価で、80点未満がD評価(不合格)となる。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/12	講義	金魚メダカ等 淡水魚の飼育総論	どんな品種がいるか各自調べる
2	4/19	講義	水質の調整などを含む水の管理	pH及び硬水・軟水について調べてくる
3	4/26	講義	金魚・メダカ等の飼育法(管理・繁殖)	過去に飼育した経験を話せるように準備
4	5/10	講義	甲虫類総論(形態、生態、整理等)	甲虫の外部形態の疑問点を調べる
5	5/17	講義・演習	甲虫類の飼育(取り扱い方、標本作成)	カブトムシの飼ひ方、寿命などを調べる
6	5/31	講義	両生類総論・分類、形態、生理、生態	日本産の両生類を一種選び調べる
7	6/14	講義・演習	有尾目の飼育(日常管理、取り扱い方)	日本産の両生類を一種選び調べる
8	6/21	講義・演習	無尾目の飼育(日常管理、取り扱い方)	日本産の両生類を一種選び調べる
9	6/28	講義	爬虫類総論(分類、形態、生理、生態)	ムカシトカゲについて調べる
10	7/5	講義・演習	カメ目水棲ガメ類の飼育(管理・取り扱い)	日本産カメ類を一種選び調べる
11	7/12	講義・演習	カメ目陸棲ガメ類の飼育(管理・取り扱い)	日本産カメ類を一種選び調べる
12	7/19	講義・演習	有鱗目トカゲ亜目の飼育(管理、取り扱い)	日本産トカゲを一種選び調べる
13	9/6	講義・演習	有鱗目ヘビ亜目の飼育(管理、取り扱い)	日本産ヘビを一種選び調べる
14	9/13	試験	期末試験(ペーパーテスト実施)	試験に対する準備を行う
15	9/20	講義	試験解答及び全過程の総括	理解しにくかった項目を予め調べる
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】				
(参考書) 菅野宏文著:「ミドリガメ・ゼニガメの医・食・住」、「リクガメの医・食・住」、「ニオイガメ・ドロガメの医・食・住」、「ヘビの医・食				

科目名	爬虫類両生類学 I 2	必修 選択	選択	年次	1	担当教員 富田京一
学科・コース	エコ・コミュニケーション科昼—3年制	授業 形態	講義	単位	1	
教員の略歴	恐竜や爬虫類研究の第一人者。多くの著書があり、映像作品や各地の博覧会にも多数協力している					
授業の学習 内容	水族館など主として海洋生物を取り扱う業界においても、生態系、生物多様性といった概念の普及に伴って、さまざまな動植物の展示や教育活動が行なわれるようになりました。かつては常に脇役に甘んじていた爬虫類や両生類に対する世間の関心や需要も非常に高まっています。水生生物や愛玩動物を取り扱う問屋、小売店においても、それは同様の傾向にあると考えられます。また、爬虫類・両生類は他の脊椎動物とも生物学上密接なつながりを持っており、たとえば魚類学を学ぶ際にそれを補完するものとして欠くべからざるものです。時代のニーズに即した爬虫類・両生類に関する学問的な知識や飼育技術の習得は、今後ますます求められていくものと予想されるため、それに即応した教育を目指します。					
到達目標	爬虫類・両生類とはいかなる動物か、進化的な背景も含めて理解する。水族館・動物園でよく展示されていたり、一般に流通している種類についてひとつおりの飼育がこなせるようになる。希少であったり、反対に外来生物として環境問題となっている、また国内外のネイチャーツアーなどで観察できる代表的な種類を識別できるようになる。およびまた、もし高校で生物を履修していない生徒でも、爬虫両生類関連の業界に就職した場合に困らないだけの基礎的な知識をつける。					
評価方法と基準	定期試験を基準としますが、出席・授業態度も重視します(定期試験80% 授業内での小テスト・レポート各10%)。					

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	爬虫両生類とは何か復習し理解を深める。	授業の内容について復習(レポート)
2		講義	水生カメの 飼育 水生種の 陸生カメの 飼育 水生種 陸生カメの 飼育 水生種	授業初め、前回の内容について議論
3		講義	高度な飼育 陸生カメの 飼育 水生種 陸生カメの 飼育 水生種	授業初め、前回の内容について議論
4		講義	爬虫両生 類の飼育 (学術的 飼育)	授業初め、前回の内容について議論
5		講義	高度な飼育 法と個体数 爬虫両生 類の飼育	授業初め、前回の内容について議論
6		講義	爬虫両生 類の野外 観察法(特 に地上 生を中心 に)	授業初め、前回の内容について議論
7		講義	爬虫両生 類の飼育 (学術的 飼育)	授業初め、前回の内容について議論
8		講義	爬虫両生 類の飼育 (学術的 飼育)	授業初め、前回の内容について議論
9		講義	爬虫両生 類の飼育 (学術的 飼育)	授業初め、前回の内容について議論
10		講義	爬虫両生 類の飼育 (学術的 飼育)	授業初め、前回の内容について議論
11		講義	爬虫両生 類の飼育 (学術的 飼育)	授業初め、前回の内容について議論
12		講義	爬虫両生 類の飼育 (学術的 飼育)	授業初め、前回の内容について議論
13		講義	爬虫両生 類の飼育 (学術的 飼育)	授業初め、前回の内容について議論
14		試験	筆記試験実施	授業初め、前回の内容について議論
15		講義	後期の学習内容に進むためのまとめ	後期に向けた予習(レポート)の指示
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 適宜プリント等を用意します。回によってスライドやビデオ等の画像や、生体・骨格標本・液浸標本も使用。				